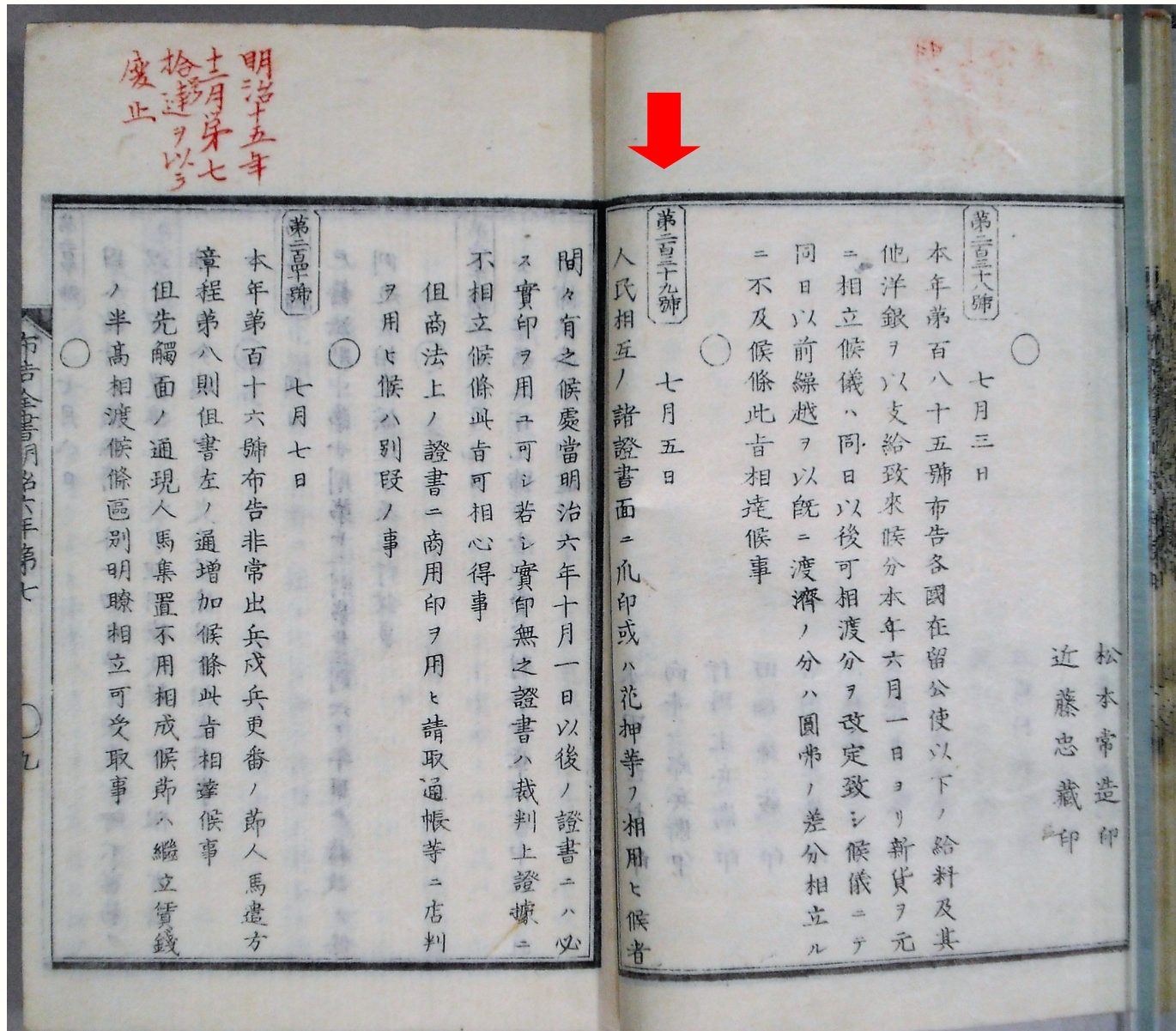


【1】脱 花押！



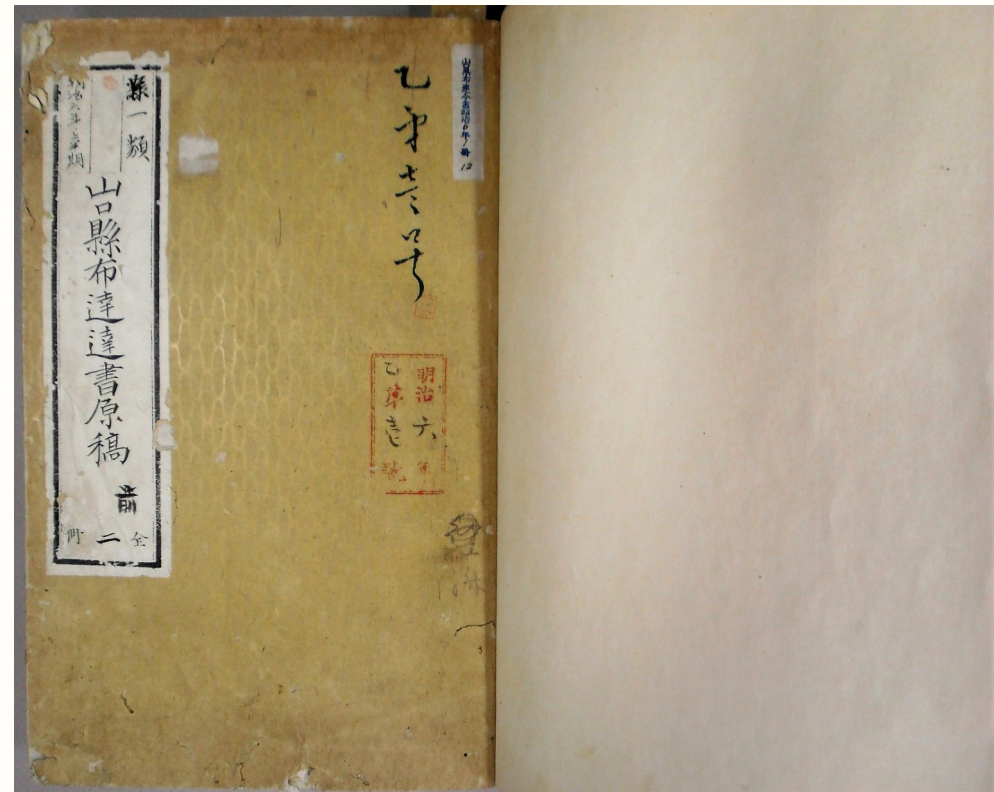
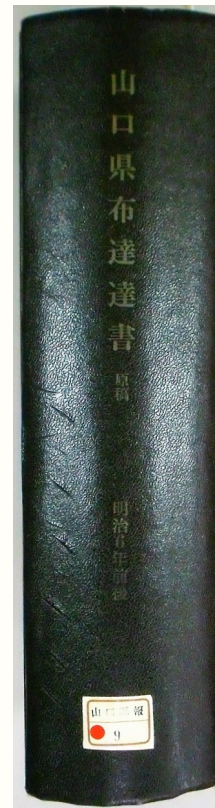
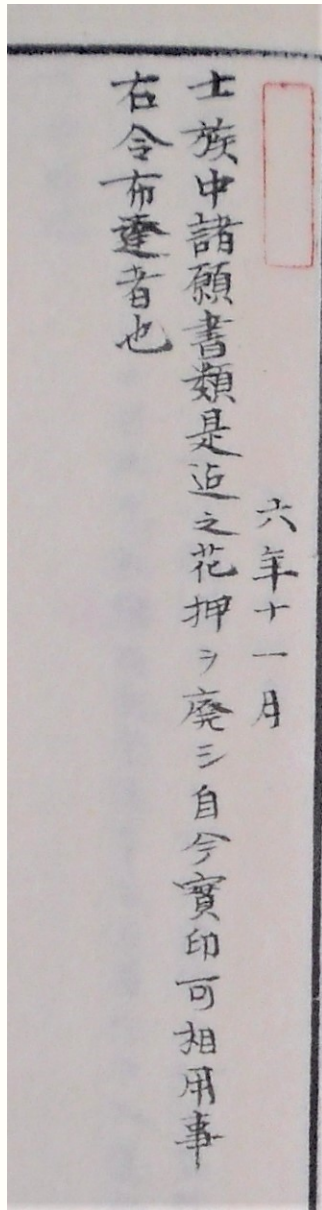
太政官布告239号 明治6年(1873)7月

「布告全書」(官省公報類567)

今日まで続く、ハンコ文化・習慣の起点となった法令です。

明治6年10月1日から、実印(印鑑)を捺していない証書は、裁判での証拠としないとしています。

【2】山口県、花押の廃止と実印の使用を士族へ布達



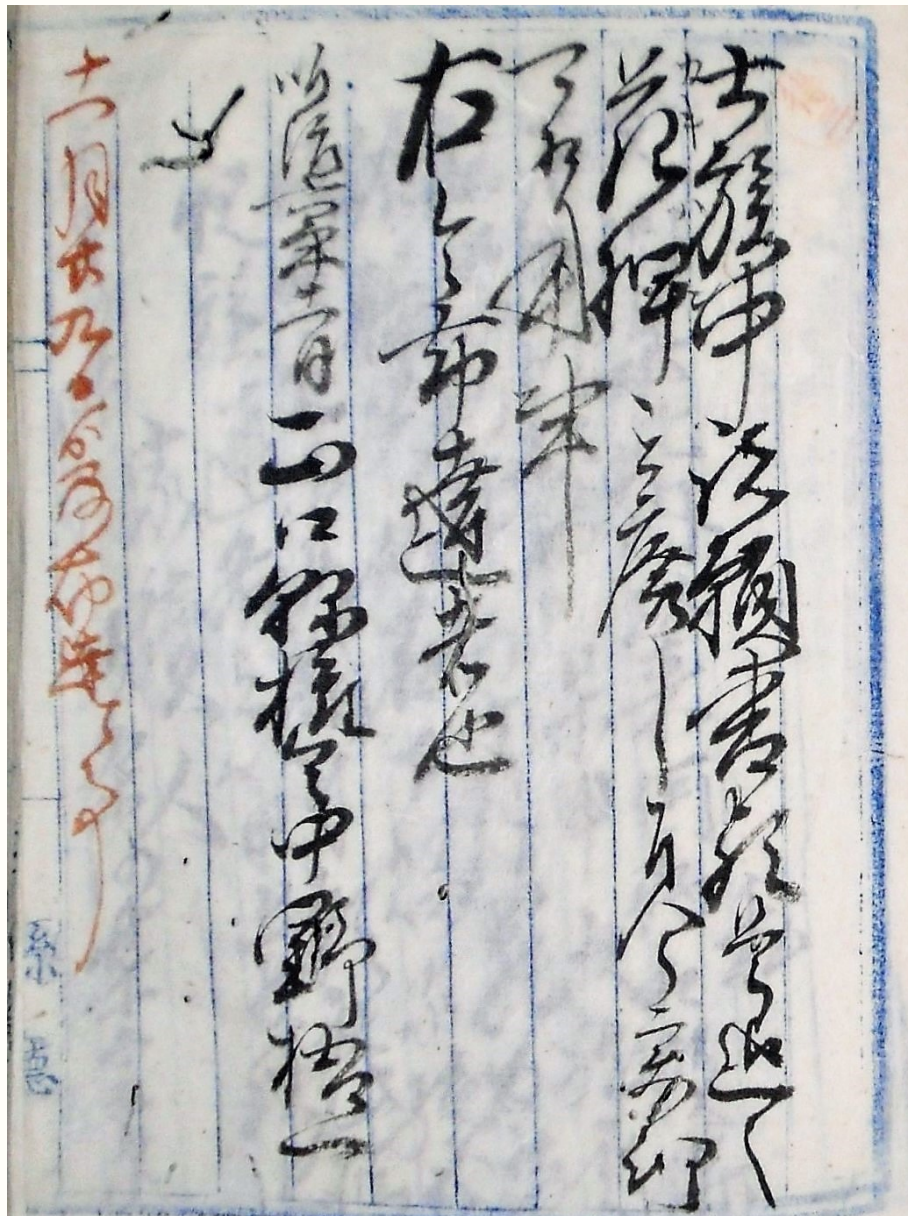
士族の願書等に花押を廃止する、明治6年（1873）11月の山口県布達

（「山口県布達達書 原稿 明治6年前・後」（明治期山口県布達類9）

士族中諸願書類、是迄之花押ヲ廃シ、自今実印可相用事

右令布達者也

【3】花押（カキハン）廃止を指示する布達が大島郡部に伝わる



士族中江諸布令諸仕出共控（大島郡役所文書82）

表紙には、「大島郡部支配用所」とあり、当時の大島郡部が県からの布達や仕出（県への伺い等）を書き留めたものです。

左側は、前のシートに挙げた布達であり、「花押」には、「カキハン」とルビが付されています。

士族中諸願書類、是迄之

カキハン

花押を廃し、自今実印

可相用事

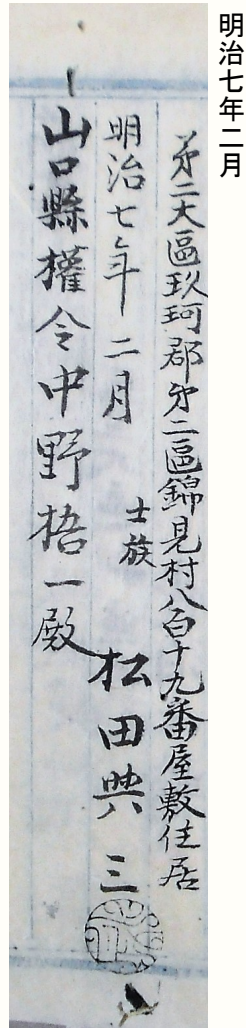
右令布達者也

明治六年十一月 山口県権令 中野梧一

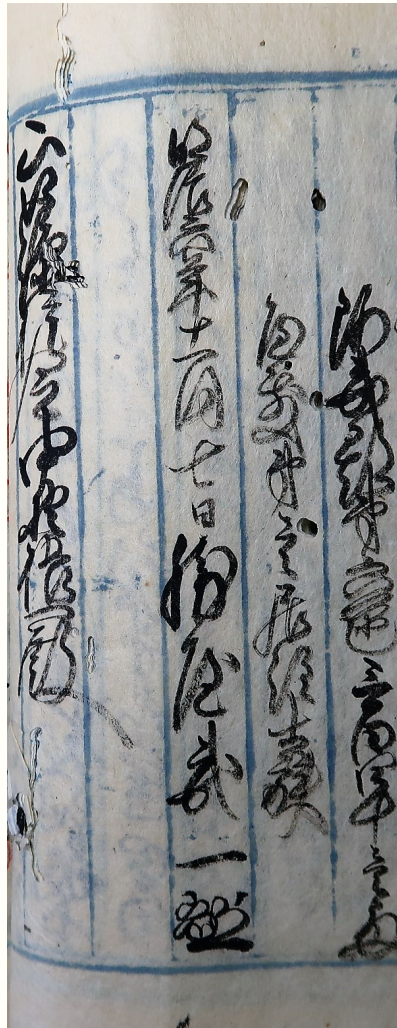
（朱筆）

「十一月廿九日及布達候事」

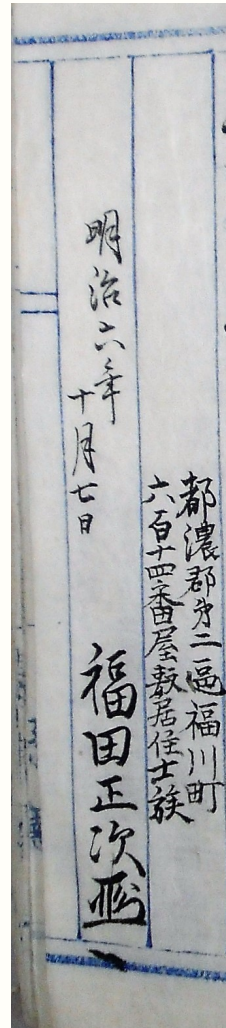
【4】士族の願書 花押から実印へ



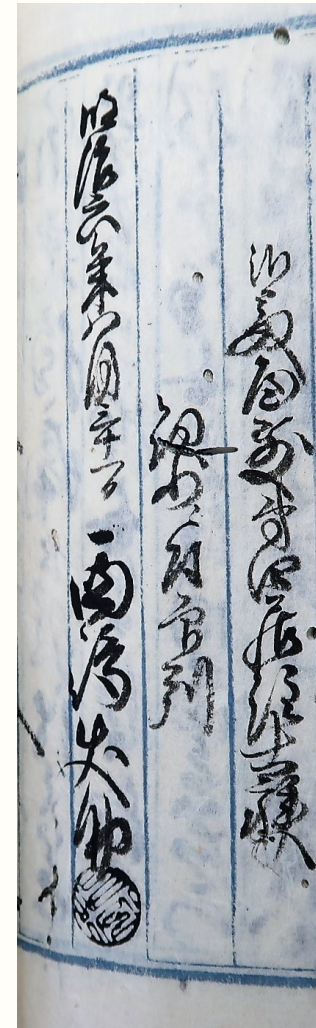
明治七年二月



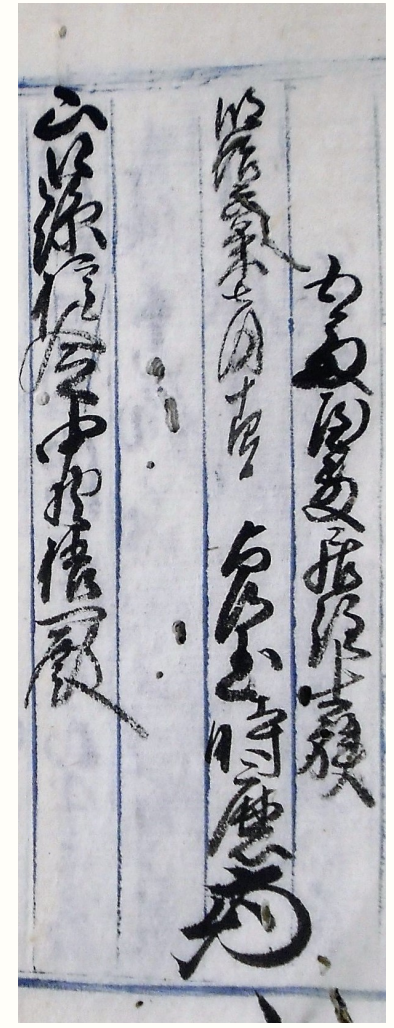
明治六年十一月七日



明治六年十月七日



明治六年八月三十一日 署名の右には「幼少ニ付印判」とある



明治六年七月十四日

「家督録」（県庁文書戦前A士族104・105）より、署名部分をピックアップしました。

明治6年（1873）末が花押から印鑑への変わり目です。右から2つ目には「幼少ニ付印判」とあるように、「花押」は成人男子が用いるものだったことがわかります。